



「日本の建設コンサルタント業界で一目置かれる存在になりたい」と語るのは、7月23日付で中央復建コンサルタンツの新社長に就任した白水靖郎氏だ。「技術力や『人財』、事業の構想段階から長期的に見据える『プロジェクト志向』と事業目的を意識した『本質を極める力』を身に付け、社会に貢献できる特別な価値を提供できる技術者集団となる必要がある」と説く。

——現在の市場環境をどう見ているか  
「国の推計では、2050年に人口が1億人を下回り、2100年には約5000万人となる見通しだ。いまこそ縮小前提の価値観から転換し、人口減少を食いとめる国土・地域づくりをしなければならぬ。そのためには、過度な効率性重視の判断から脱

## 新 社 長 Interview

# 一目置かれる技術者集団へ

却し、多様な視点から公共事業の本質を踏まえた事業を推進するべきではないか」

——今後の事業展開に必要な視点は

「一目置かれる存在となるためには、本質を極めなければならぬ。力学の原理原則に基づく設計や対話に裏付けされた提案、経験を生かした総合的な判断、目的意識を持ったプロジェクトの実行が重要だ。本質を他者と一線を画すレベルまで極める」

「他者との差別化を図るため、『人こそが最大の資源』『学習と試行錯誤』が強みを創る」との考えを基に経営していく。さらに、良いプロジェクトが社会に高い価値を提供し、人を育て、企業の持続的成長につながり、ブランド力を向上させるという流れを重視する」

「われわれの強みである鉄道関係では、一つの事業に長く関わる人が多い。プロジェクトの構想段階から計画・設計・供用までの数十年、関わり続けることを想定した考え方がプロジェクト志向だ」

「技術の切り売りではなく、目的は事業化だ。実現しない提案では意味がない。請け負うだけの受注産業ではなく、能動的にプロジェクトを形成する価値を創造する産業へ転換したい。建設コンサルタンとは事業者のパートナー・エンジニアとなり、国民や施工者、事業者をつなぐ役割を果たす」

### 記者の目

1991年3月京大工学部卒業後、同年4月中央復建コンサルタンツ入社。2010年計画系部門ゼネラルマネジャー、14年取締役東京本社長、23年専務経営企画本部長などを歴任。趣味はアニス、まち歩き、ガストロノミー。大阪府出身、57歳。

土木学会や日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）などの委員会・研究会活動にいそしみ、京大経営管理大学院客員教授を務めるなど、社外にも積極的に活動の場を広げるアクティブな印象を受けた。活動の積み重ねが生かされると考えており、社員にも能動的・自主的な姿勢を促す方針は、トップダウンやボトムアップではなく、肩書を超えた会社づくりを進めようとしているように見えた。

